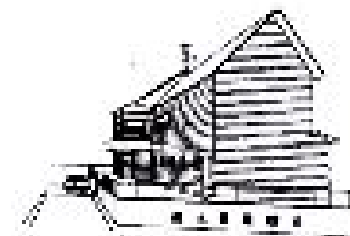


<今朝の聖書から> 今朝は、牧師がA型インフルエンザ(恐らくは新型)に感染した為、礼拝堂での礼拝を取りやめることになりました。けれども、それぞれ家庭で、復活の主を覚え、豊かな恵みと慰めを頂く時を持ちましょう。父祖たちもそのようにしてきました。創世記 35:7 には“彼はそこに祭壇を築き、その所をエル・ベテルと名づけた。彼が兄の顔を避けてのがれる時、神がそこで彼に現れたからである”とあります。必要な時に祭壇を築き、主に呼ばわり、主に求め、感謝を捧げた記録は、何回も出てきます。あとで思い出してみると、何回も“あの時に”という時に、私達は祭壇を主の前に築いたことを思い出します。今朝も、“別に大きな出来事に出合ったわけでもない”という兄弟も多いと思いますが、いつもの聖日と同じ神様の恵みを頂く時を持ちましょう。さて今日開く聖書の個所ですが、何とも説明のしにくい喩です。少しの時間しか働かなかった雇い人も、丸々一日働いた雇い人も、日当をもらう時になってみたら、皆同じ“一日分”の日当だった、この様子が天国なのだということです。私達の知っている世界とは違います。私達の世界では、どれほどの価値(労働でいえばどれだけの時間や技能)のものかとか、どれだけの交換価値があるかが大きな意味を持ち、この価値こそが行動の基準になっていると言えるでしょう。そこがいまだ、どのような世界かははっきりしていませんが、豊かな“神の国”というそこへ招き入れられうために、わたしたちは、遅くなっても、大人になっても、年老いてからでも、イエス様の所に行くのではないのでしょうか。そして私達迎える者は、“信仰に先輩も後輩もないんですよ”と言ってこの人を迎えるのではないのでしょうか。このような価値観が説明されているのが、今朝の聖書個所です。神はずっと昔から神の世界へ人々を招かれました。創世記の昔からです。そしてイエス様の時代になり多くの人々が、神様を信じました。けれども、天国に行っても私達の世界と同じ貨幣経済のようなものがあって序列があるのだと考える、ここでいうパリサイ派の人々がいます。このような人にとって、あとから罪赦された人を主の民に加えることは、不平等極まることとして許せなかったようです。私たちはみな、ずいぶん前から主を信じた者たちです。皆が等しく一人分の1デナリの報酬が、恵みとして約束されているのが、天国の経済学なのです。この世の価値観がどんなに忌まわしい優越感や劣等感の源のように思っているか思い出し、主の救いを感謝しましょう。

週報

2009年 10月 4日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp